

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

- (1)調査時点 2021（令和3）年10月1日
(2)調査対象期間 2021年7月～9月期の実績および2021年10月～12月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス・諸業部会より各30社、計150社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回答率
商業+食品業部会	30社	17社	56.7%
水産業部会	30社	14社	46.7%
機械工業部会	30社	15社	50.0%
建設業部会	30社	18社	60.0%
観光・サービス業+諸業部会	30社	19社	63.3%
合計	150社	83件	55.3%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ. 概 況

－今期の業況は前年同期よりも回復。次期は僅かに悪化の見通し－

1. 全体の動き(業況)

四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(2021(令和3)年7月～9月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比▲15.7と前年同期▲42.1から大幅な回復**となりました。

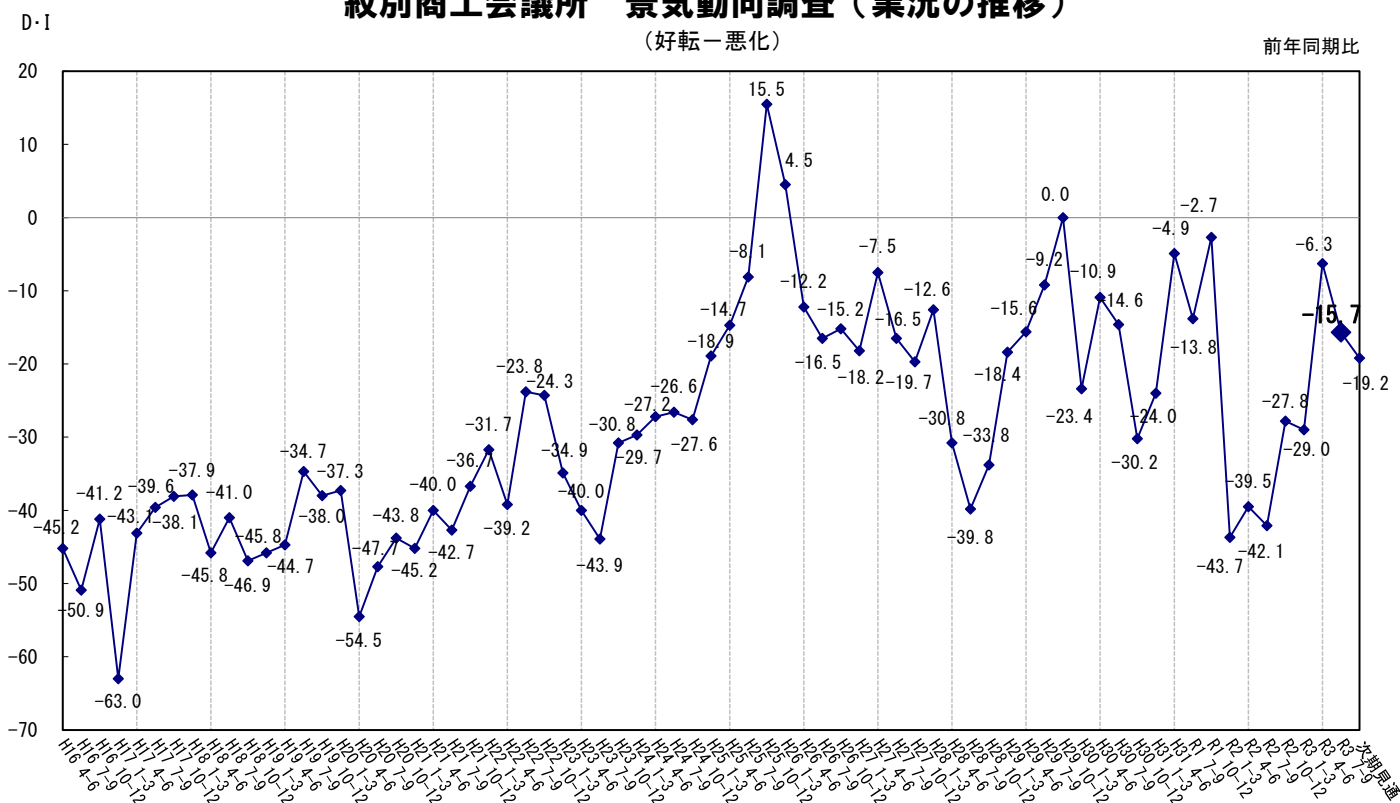
業況判断DIを前年同期と比べてみると、商業食品業[前年DI値▲35.7→今期▲41.1]、水産業[前年DI値▲33.4→今期42.8]、機械工業[前年DI値▲50.0→今期▲20.0]、建設業[前年DI値▲44.4→今期▲16.7]、観光サービス業・諸業[前年DI値▲47.7→今期▲31.6]と水産業が大幅に回復し、プラスに好転しました。その他の業種でも僅かに回復していますが、商業食品業が更に悪化の値となりました。経営上の問題点は、依然として「従業員の確保難」、「原材料・材料単価の上昇」「需要の停滞」を訴える声が多くなっており、外国人技能実習生の入国規制の解除を待ち望む声も寄せられています。

来期(2021(令和3)年10月～12月)については、**業況判断DIは▲19.2**と僅かに悪化する見通しとなっています。新型コロナウイルスのワクチン接種が全国でも順調に進み、感染者数も大幅に減少したことから、緊急事態宣言も9月末には一斉解除されました。市内でも少しずつ流動人口が増加している様子が窺え、経済活動回復に向けて期待感が持たれます。

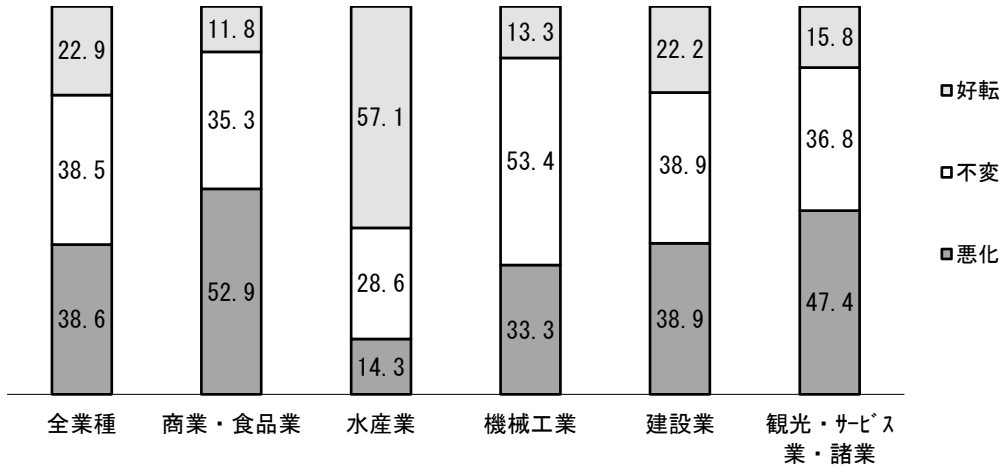
紋別商工会議所 景気動向調査(業況の推移)

(好転－悪化)

前年同期比



今期の業況（前年同期比）



■部会別の動向

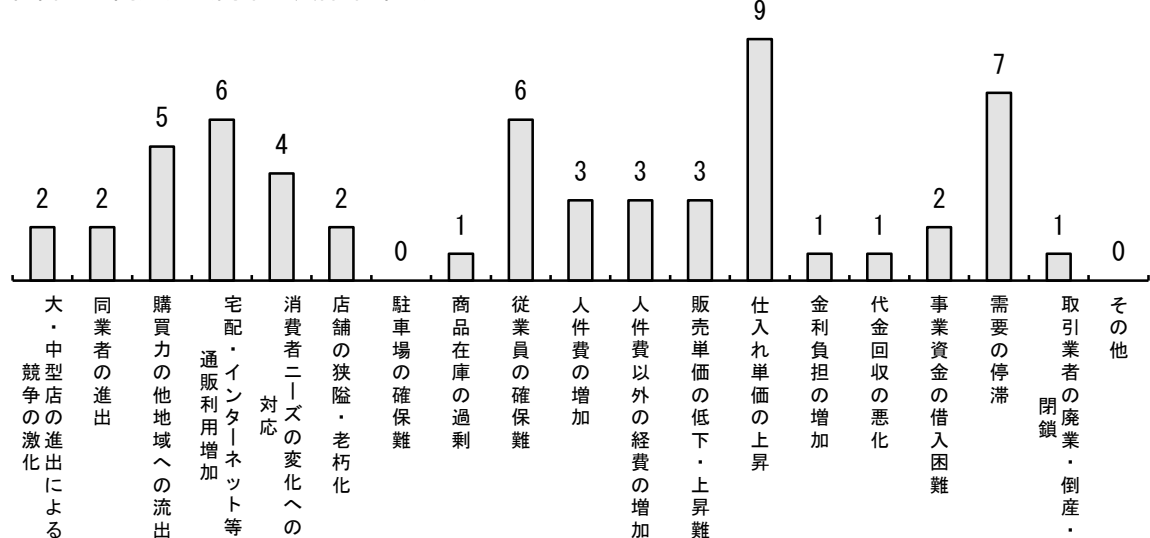
【商業・食品業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲41.1（前年DI値▲35.7、来期見通し▲17.7）〕

業況DI値（前年同期比）は、前年同期より5.4ポイント悪化となりました。新型コロナウイルスの感染再拡大に伴い、3度目の緊急事態宣言が8月下旬から発令され、売上の大半が飲食店への酒類販売となっている商店では飲食店ほどの手厚い支援金もなく、大きな損害となっているなど、支援金の支給対象拡大への声が寄せられています。来期は、緊急事態宣言が解除されたことから、DI値が▲17.7と23.4ポイントの回復が見込まれています。経営上の問題点としては「仕入単価の上昇」「需要の停滞」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・間接的な売上被害。事業者を全てに給付金を。給付金差別をなしに！維持費が苦しいです。（燃料小売業）
- ・個人客の減少。客数減。（医薬品・化粧品小売業）
- ・消費動向の変化、カウンセリングのみで購入は大型店という消費者が増加。（医薬品・化粧品小売業）
- ・24時間営業は必要な地域のみで良いと思う。働く人がいない。（食料品小売業）
- ・支援金がなさ過ぎて、維持するだけで赤字経営。（食料品小売業）
- ・「購買力の他地域への流出」同じ市内であるとはいえ、著しい流出に経営の困難を痛感しています。（食料品小売業）

経営上の問題点（商業・食品業部会）

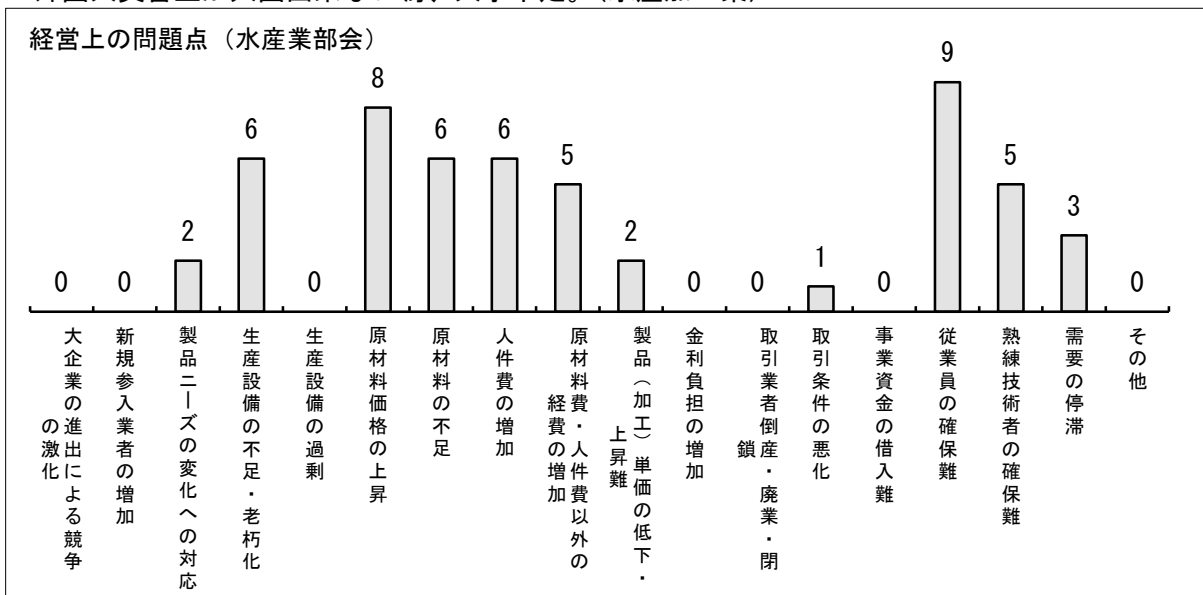


【水産業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）42.8（前年DI値▲33.4、来期見通し0.0）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、76.2ポイント大幅に回復し、プラスに好転しました。今年も秋の食にまつわるイベントの中止や外食産業の不振から、注文が減少しているとの意見もあります。しかしながら、昨年度、紋別市のふるさと納税は納税額で全国2位と順調に推移し、特にホタテやカニを中心とした水産加工品の需要が高く、好転の一因となっているものと思われます。そうした需要がある一方で、外国人技能実習生の入国制限が解除されない状況から、労働力不足を訴える声も依然として寄せられています。来期については、今期と変わりなく順調に推移する見通しとなっています。経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、次いで「原材料単価の上昇」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》

- ・ 従業員の高齢化。外国人実習生の未入国。（水産加工業）
- ・ 外国人実習生が入国出来ない為、人手不足。（水産加工業）

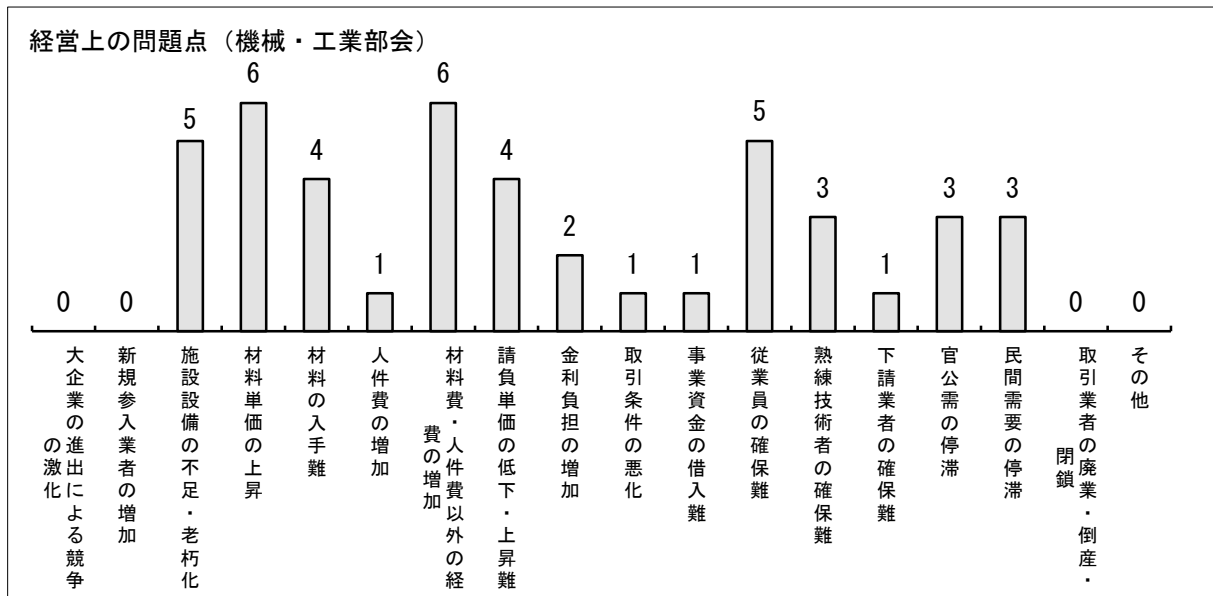


【機械・工業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲20.0（前年DI値▲50.0、来期見通し▲33.3）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、30ポイントの回復となりました。業況は回復傾向にあるものの、海外の工場において労働者の減少による稼働率の低下から、製品や部品の納期遅れによる品不足が生じるなど、全体として動きが鈍くなっています。一方、新たな自社努力により、業況が改善したとの回答も寄せられています。来期は悪化を示す回答が減少し、今期よりも回復する見通しとなっています。経営上の問題点として、「材料単価の上昇」「材料費・人件費以外の経費の増加」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・ 材料単価の上昇（木材製造）
- ・ 新車販売は東南アジア諸国にてコロナウイルスの感染拡大に伴うロックダウンの為、サプライヤー企業の稼働制約を強いられ新車生産が厳しい状況でした。結果、9月の新車販売は大幅に減少、サービス工場と中古車販売でカバーし、第2四半期は昨年並みに売上を維持しましたが、10月はかなり厳しい状況ではありますが、12月までには改善されると思います。いずれにしても、先行き不透明感があります。（自動車整備販売業）

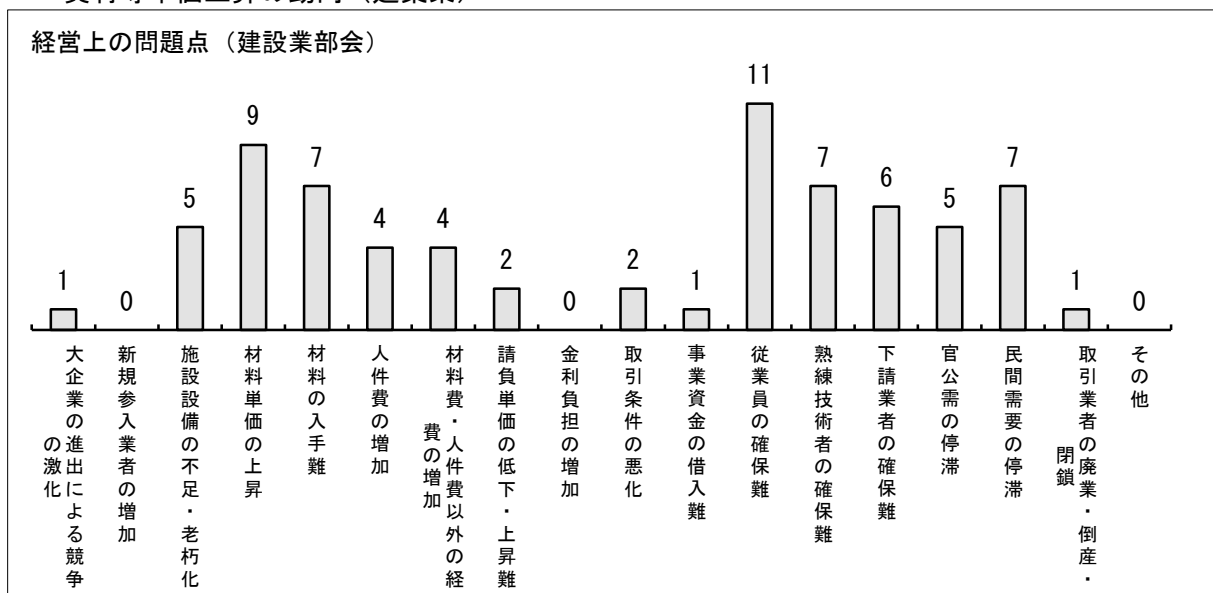


【建設業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲16.7（前年DI値▲44.4、来期見通し▲22.2）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、27.7ポイントの悪化となりました。建築資材や土木工事業でやや悪化を示す回答が多く寄せられました。一方で、材料が不足し工事が進められなかった前年と比較し、建築業や内装業では、今期はやや好転を示す回答が寄せられました。来期は今期よりもやや悪化する見通しとなっています。経営上の問題点としては、「従業員の確保難」、「材料単価の上昇」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・若年従業員の育成という建設機械運転技能養成を強化して、職業的地位の向上と安定した待遇（所得）を維持できる様、業界全体で築いていく事も考えて欲しい。（土木工事業）
- ・まだまだ若手従業員の不足が続いている。（管工事業）
- ・資材等単価上昇の動向（建築業）



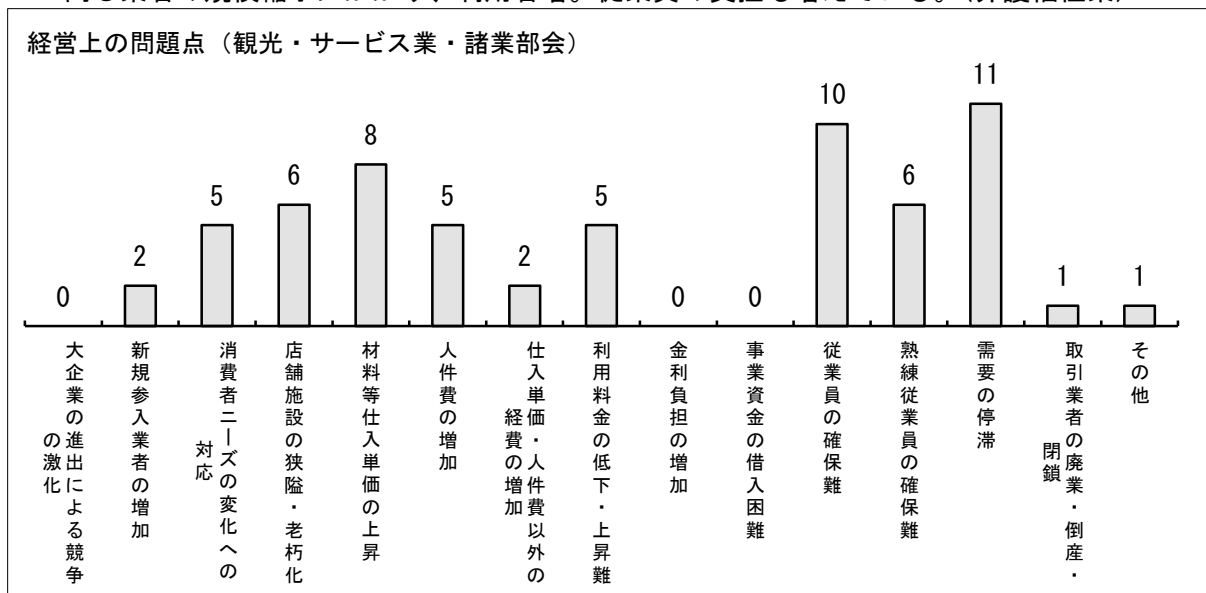
【観光サービス業・諸業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲31.6（前年DI値▲47.7 来期見通し▲21.1）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、16.1ポイントの回復となりました。8月下旬から9月末までの3度目の緊急事態宣言により、飲食店では営業時間短縮の要請に協力した影響は大きいものの、5・6月の緊急事態宣言時には休業した店舗も、今回は時短営業やテイクアウトを行うなど、対応にも変化が見られました。介護関連では同業者の規模縮小によって利用者が増加し、従業員の負担が増加しているとの声も寄せられました。次期は緊急事態宣言も解除されたことから、今期よりもやや回復する見通しとなっています。経営上の問題点としては、「需要の停滞」

「従業員の確保難」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・近隣で廃業やら閉店によるしわ寄せが多少きている。全体的に街の退潮傾向が気になる。(飲食業)
- ・大型車両運転者の不足・高齢化(貨物運送業)
- ・利用者の減少。従業員の老齢化。企業努力の限界。(旅客運送業)
- ・人件費の増加(クリーニング業)
- ・慢性的な人員不足(介護福祉業)
- ・同じ業者の規模縮小にかかり、利用者増。従業員の負担も増えている。(介護福祉業)

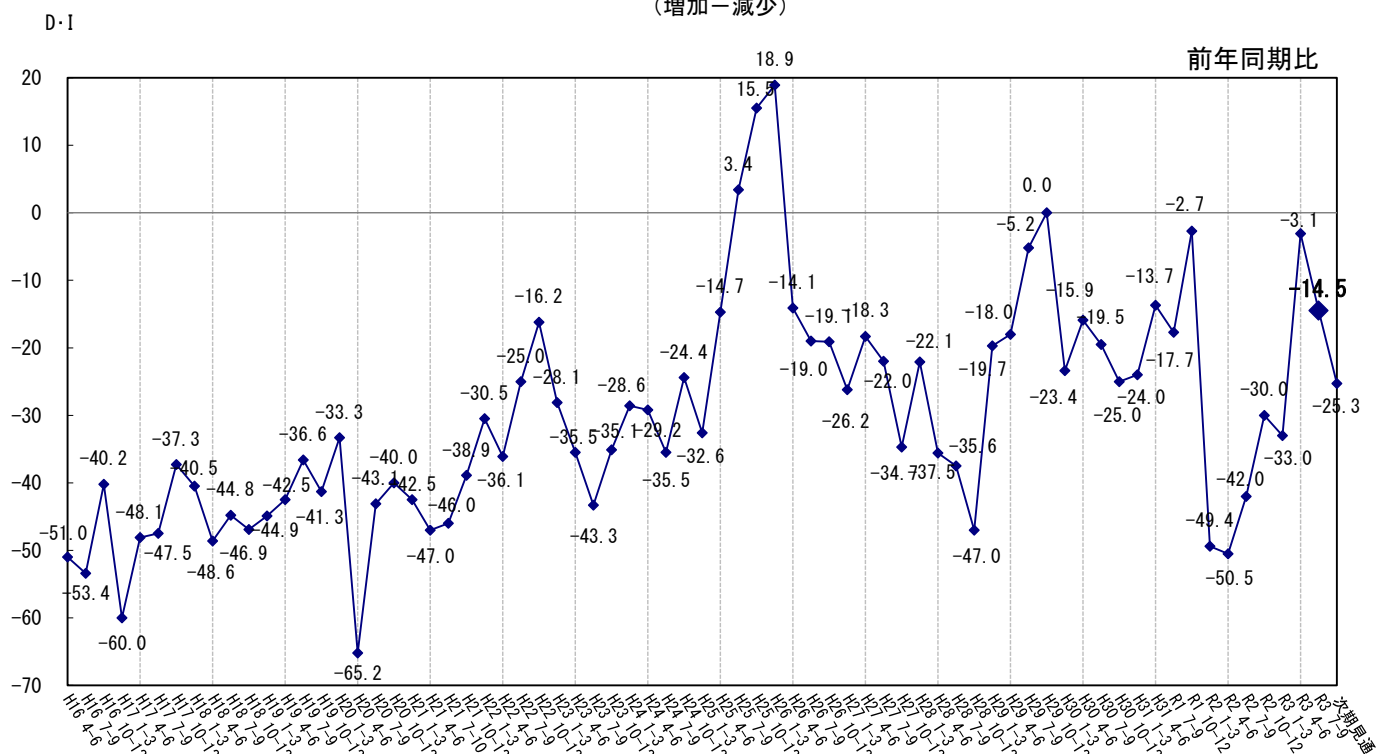


2. 今期の動向

(1) 今期の売上高・生産高

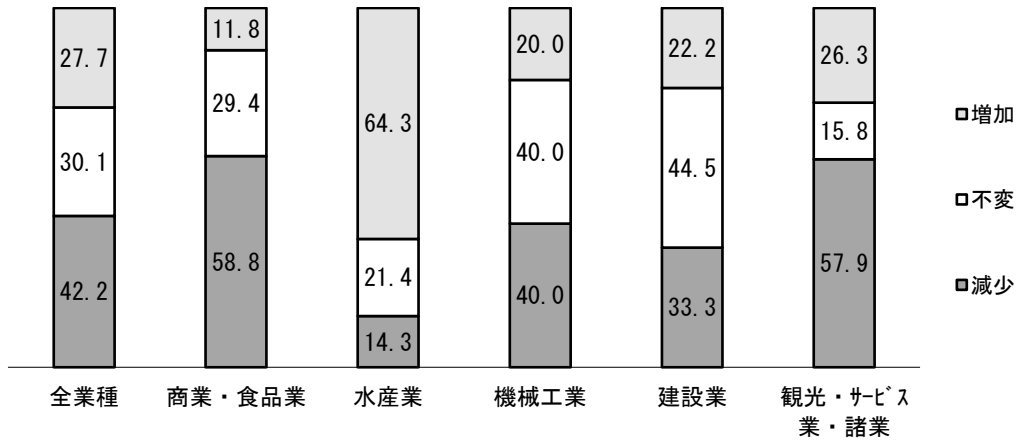
売上高・生産高推移(全業種平均D・I)

(増加-減少)



【前年同期比】（2020（令和2）年7月～9月期の水準と比較した今期の売上高）

今期の売上高・生産高（前年同期比）



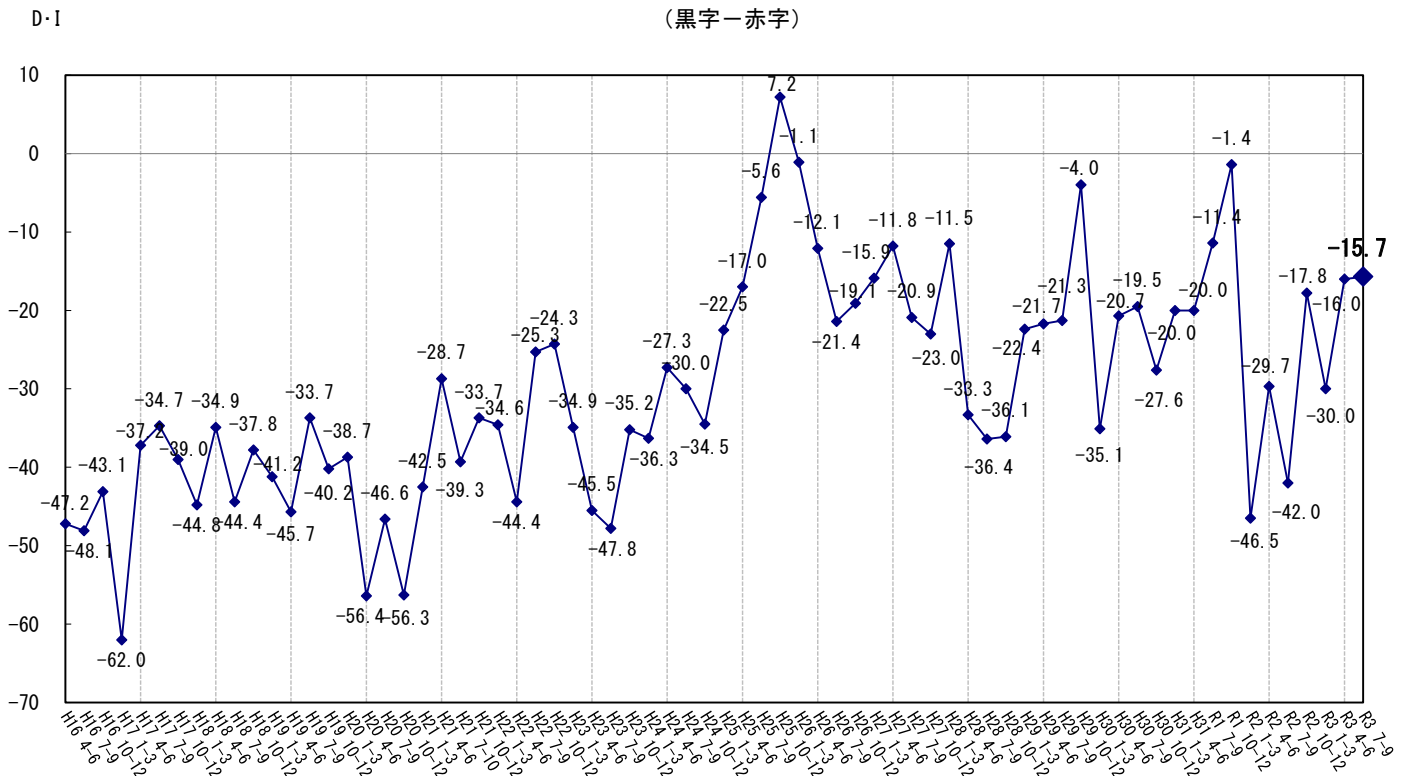
全業種平均でDI値▲14.5〔前年調査時（2020年7～9月期▲42.0）より27.5ポイント回復〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲28.6→▲47.0〕、水産業〔前年▲38.1→50.0〕
 機械工業〔前年▲42.8→▲20.0〕、建設業〔前年▲38.8→▲11.1〕
 観光・サービス業・諸業〔前年▲57.1→▲31.6〕

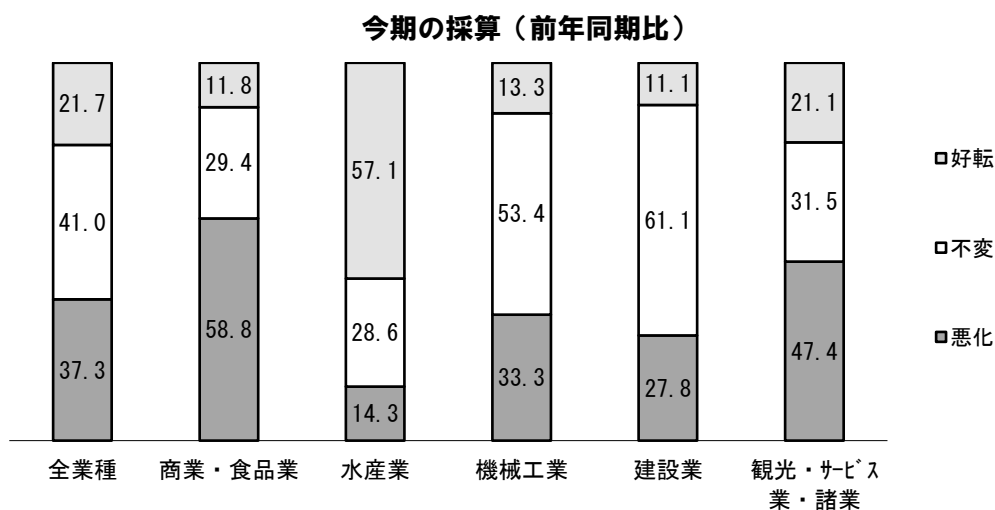
(2) 今期の採算

採算推移（全業種平均D・I）

（黒字－赤字）



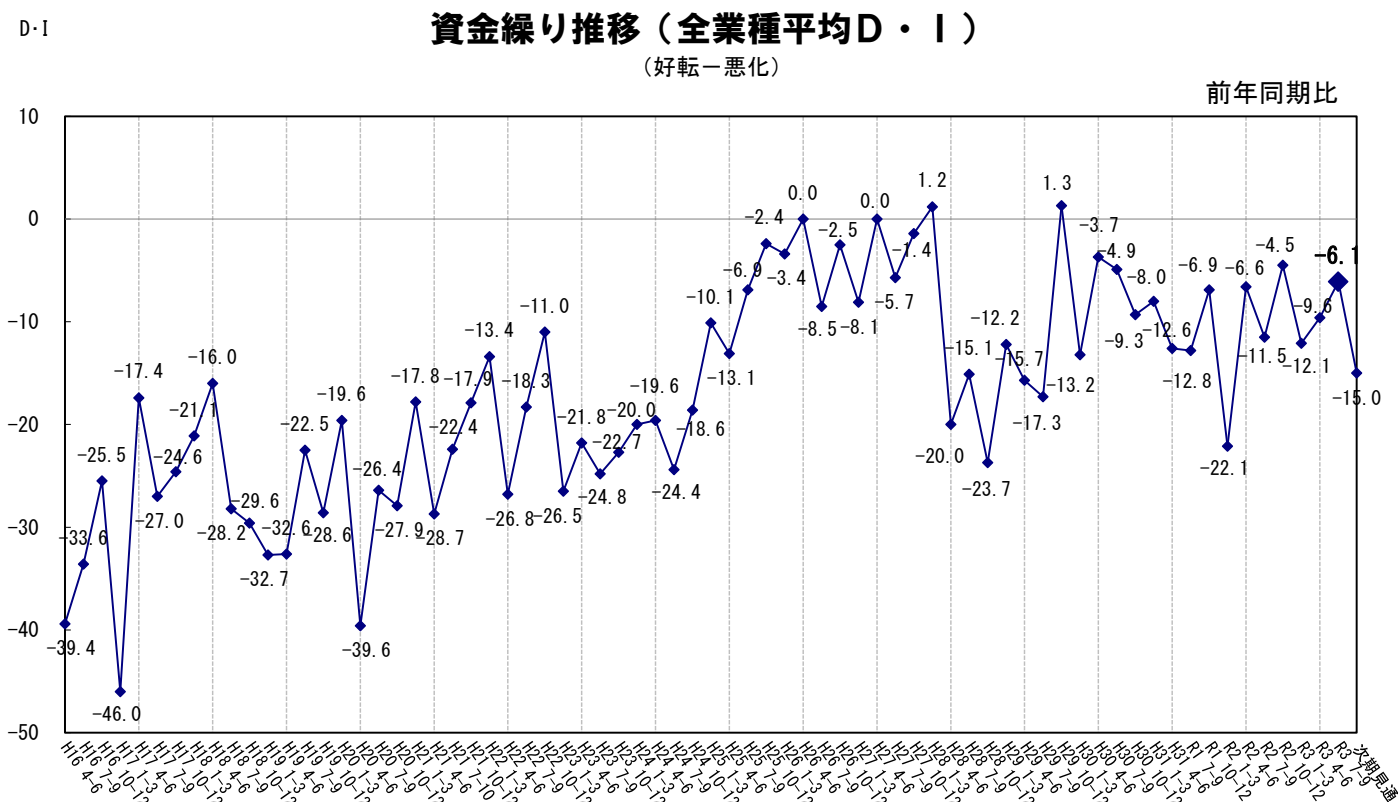
【前年同期比】（2020（令和2）年7月～9月期の水準と比較した今期の採算水準）



全業種平均でDI値▲15.7〔前年調査時（2020年7～9月期▲42.0）より26.3ポイント回復〕

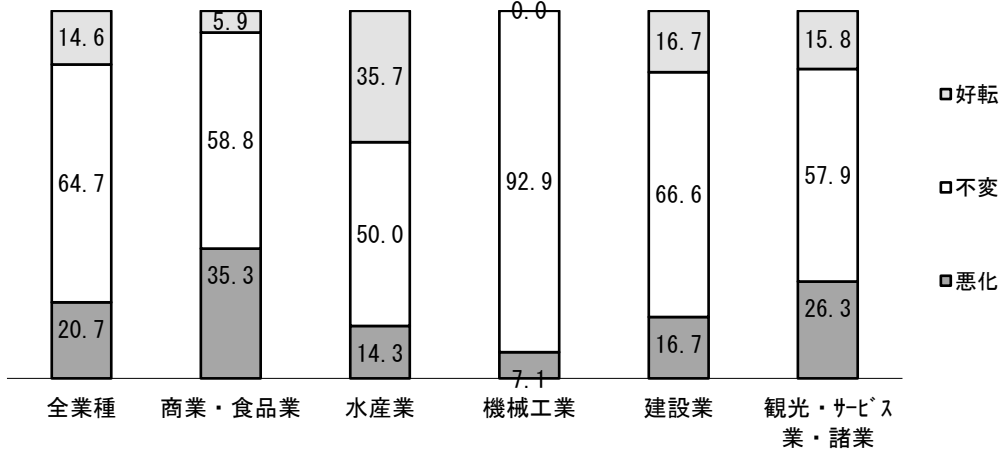
〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲50.0→▲47.0〕、水産業〔前年▲23.8→▲42.8〕
 機械工業〔前年▲57.2→▲20.0〕、建設業〔前年▲44.4→▲16.7〕
 観光・サービス業・諸業〔前年▲42.8→▲26.3〕

(3) 今期の資金繰り



【前年同期比】（2020（令和2）年7月～9月期の水準と比較した今期の資金繰り）

今期の資金繰り（前年同期比）



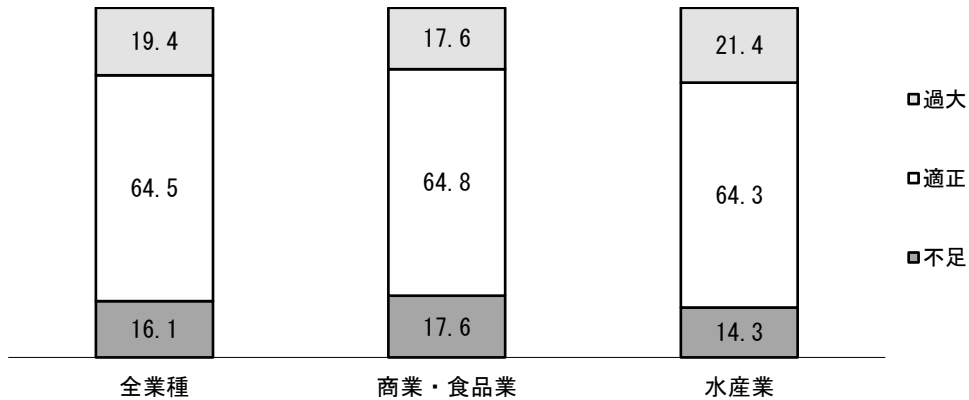
全業種平均でDI値▲6.1〔前年調査時（2020年7～9月期▲11.5）より5.4ポイント回復〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲7.1→▲29.4〕、水産業〔前年▲4.8→21.4〕
 機械工業〔前年▲38.5→▲7.1〕、建設業〔前年▲16.6→0.0〕
 観光・サービス業・諸業〔前年0.0→▲10.5〕

(4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（2020（令和2）年7月～9月期の水準と比較した今期の在庫水準）

今期の在庫水準（前年同期比）

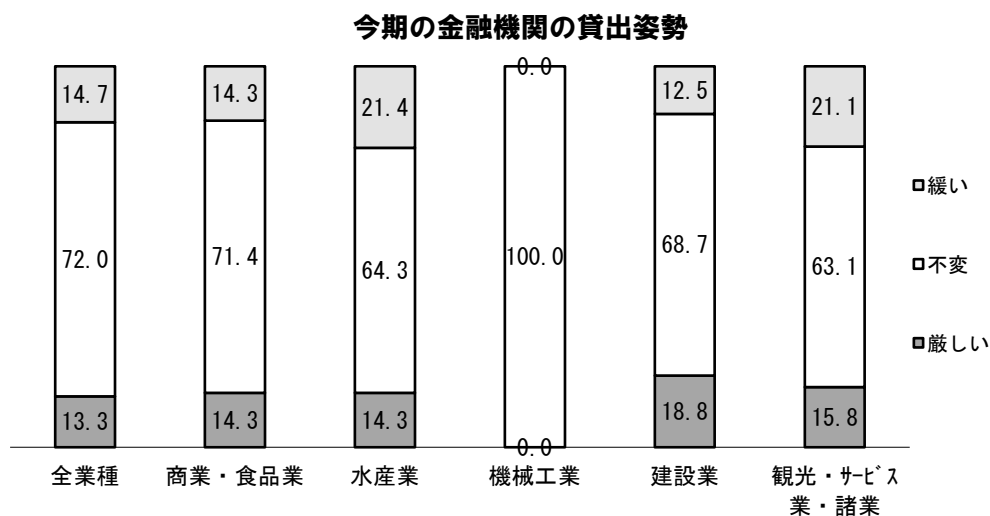


全業種平均でDI値3.3〔前年調査時（令和2年7～9月期▲5.8）より9.1ポイント改善〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年0.0→0.0〕、水産業〔前年▲9.5→7.1〕

(5) 今期の金融機関の貸出姿勢

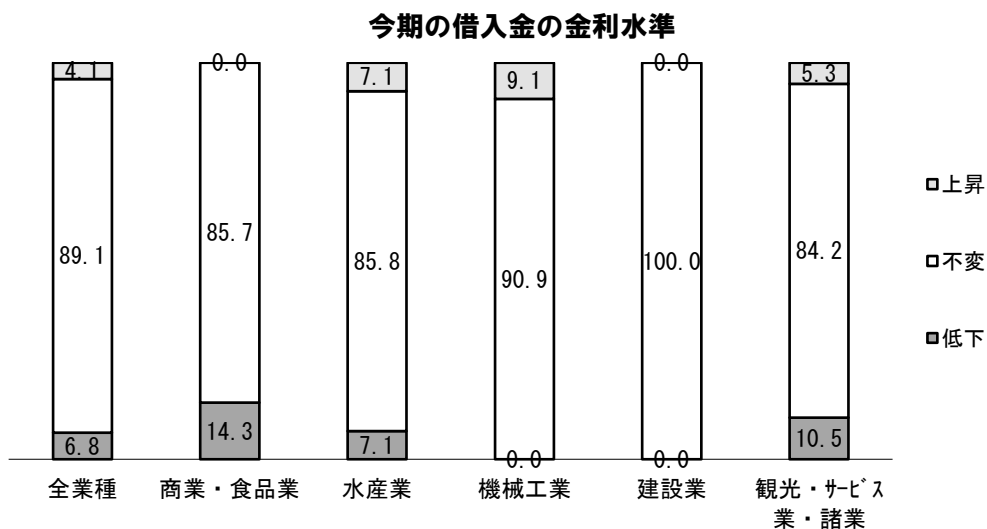
【前年同期比】(2020(令和2)年7月～9月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応)



全業種平均で **1.4** ポイント。商業食品業 **0.0**、水産業 **7.1**、機械工業 **0.0**、建設業 **▲6.3**、観光サービス業・諸業 **5.3**

(6) 今期の借入金の金利水準

【前年同期比】(2020(令和2)年7月～9月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準)

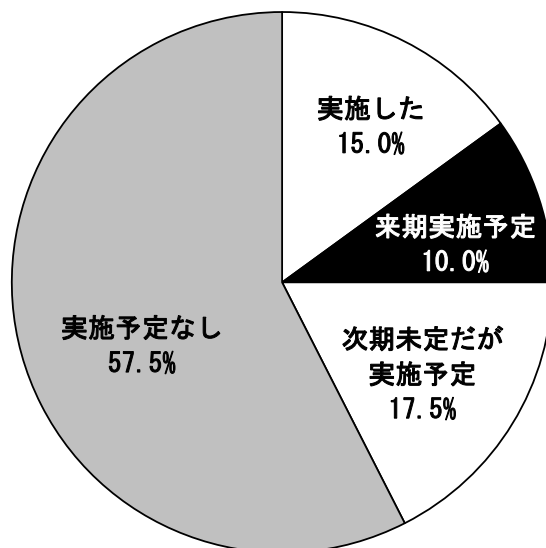


全業種平均で **▲2.7**。商業食品業 **▲14.3**、水産業 **0.0**、機械工業 **9.1**、建設業 **0.0**、観光サービス業・諸業 **▲5.2**。

(7) 設備投資の実施状況

今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について

設備投資の実施状況

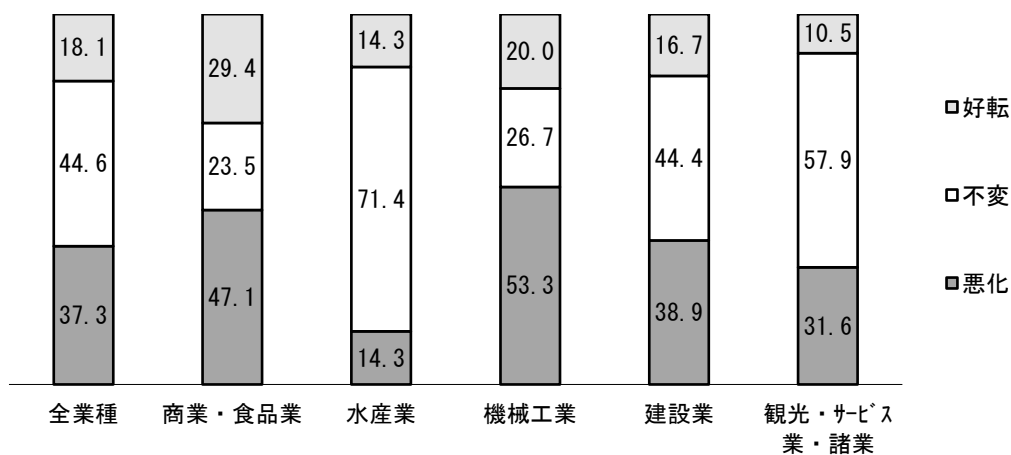


3. 来期の見通し

(1) 来期の業況見通し

【今期比】(2021(令和3)年7月～9月期の水準と比較した来期の業況見通し)

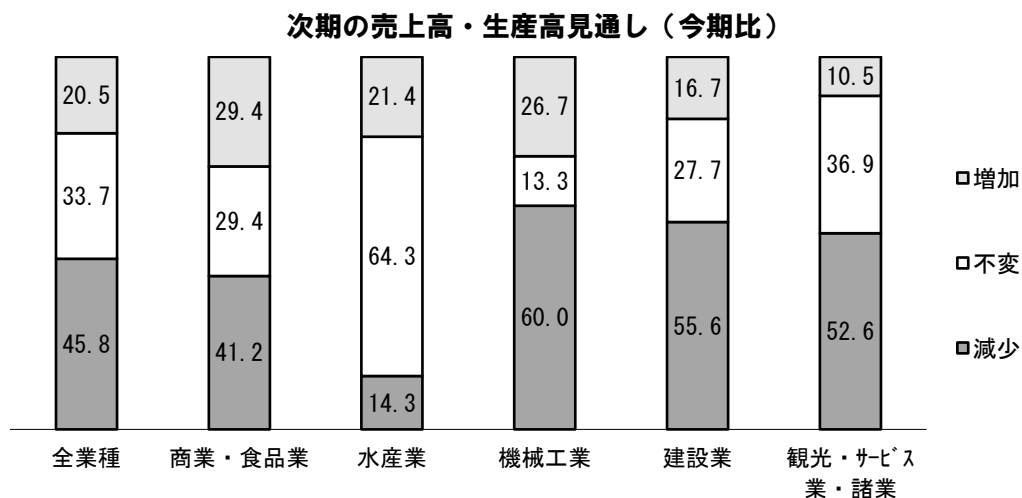
次期の業況見通し(今期比)



全業種平均 DI 値▲19.2 [今期の業況▲15.7と比較し、3.5ポイント悪化の回答が増加傾向]

(2) 来期の売上高・生産高見通し

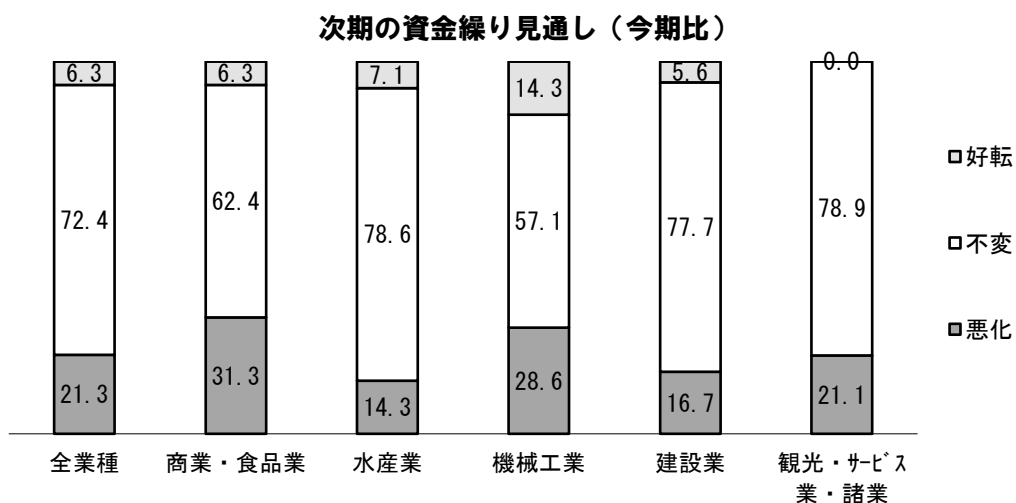
【今期比】(2021(令和3)年7月～9月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し)



全業種平均 DI 値▲25.3 [今期の売上高・生産高▲14.5 より、機械工業、建設業、観光サービス業で減少するとの回答増により 9.2 ポイント悪化傾向]

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】(2021(令和3)年7月～9月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し)



全業種平均 DI 値 ▲15.0 [今期の資金繰り▲6.1 より商業食品業、機械工業で悪化の回答が増加し、8.9 ポイント悪化傾向]

Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サ ー ビ ス ・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	▲15.7	▲41.1	42.8	▲20.0	▲16.7	▲31.6
	来期見通し	▲19.2	▲17.7	0.0	▲33.3	▲22.2	▲21.1
売上高・ 生産高 D・I	今期実績	▲14.5	▲47.0	50.0	▲20.0	▲11.1	▲31.6
	来期見通し	▲25.3	▲11.8	7.1	▲33.3	▲38.9	▲42.1
在庫 D・I	今期実績	3.3	0.0	7.1	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	▲15.7	▲47.0	42.8	▲20.0	▲16.7	▲26.3
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	▲6.1	▲29.4	21.4	▲7.1	0.0	▲10.5
	来期見通し	▲15.0	▲25.0	▲7.2	▲14.3	▲11.1	▲21.1
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	1.4	0.0	7.1	0.0	▲6.3	5.3
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	▲2.7	▲14.3	0.0	9.1	0.0	▲5.2
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準D・I値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。

Ⅳ. アフターコロナ（ポストコロナ）における取り組み

新型コロナウイルスの猛威により8月27日から発令された「緊急事態宣言」も9月末をもって全国一斉に解除され、飲食店をはじめとした各業種では、およそ一か月振りの活動再開となりました。また、全国的にワクチン接種が進み、感染者数も減少傾向にあり、ワクチン接種証明による行動緩和等、様々な施策も検討されています。

そこで今回は、コロナが終息した後の「アフターコロナ（ポストコロナ）」において「検討されている取り組み等」についてご意見を頂きました。

【自由記載】

- ・オンライン・SNSでの顧客の囲い込み（医薬品・化粧品小売業）
- ・広告の回数を増やすなどして、来店客の増加に取り組みます。（食料品卸小売業）
- ・経費削減のため移転。（食料品小売業）
- ・Go To トラベル（水産加工業）
- ・今回のコロナにより消費者ニーズが激変したと思われます。今後、消費者ニーズに合った対応が必要と思われます。（水産食料品卸売業）
- ・何かをやりたいが、具体的にはまだ思い浮かばない。（印刷業）
- ・新事業にチャレンジ予定（土木工事業）
- ・水産加工業向けサービス、ゴルフ場、テーマパーク、観光業向けサービス（酪農サービス業）
- ・外国人人材育成事業（介護福祉業）
- ・アフターコロナになっても、WEBでの研修等を継続していきたい。（介護福祉業）